

2026(令和8)年度 第11号

岩国市教育委員会 生涯学習課

地域連携教育だより

いわくに地域連携教育アドバイザー

岩国市HP



つながり

大上好久

令和8年9月15日発行

Tel:29-5210

Fax:21-3456



岩国中学校



二次元コードから
閲覧可能です。

対等な目線で対話し 子供とともに 課題を解決!!



文部科学省は、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る手引きを出し(2026年3月)、熟議について次のように述べています。「こども基本法第3条においては、子供が意見を表明する機会等を確保することを、行政施策を行う際の基本理念とすることが規定されています。学校運営協議会等で学校運営の在り方等について協議を行う際は、学校運営協議会委員だけでなく、子供の声を積極的に聴くことが重要です。」

※熟議…関係者が集まり、意見を交換し合いながら、共通の課題について深く議論するプロセス

大人と子供が、自分の思いを伝え合った 岩国きんたいきょうネット協議会<岩国中校区>



熟議の全体進行を担当するのは生徒会長、堂々として温かみのある進行でした。グループ協議の進行も生徒会執行部、時間も意識しながら、笑顔でスムーズな進行で、和やかな雰囲気をつくっていました。

自分たちの中学校時代と状況が全く違い、考え方も異なっていてやや戸惑いも感じました。<地域住民>

中学生が、しっかりしていて感心しました。自己紹介も夏休みの思い出を一言加えるなど楽しい雰囲気にする工夫をされていてありがたかったです。<地域住民>

熟議のテーマは「岩国中の目指す3つの子供像(いわくに愛にあふれる子／学び合い学び続ける子／よりよく生きようとする子)の実現に向けて、地域の皆さんと何をどう取り組みばよいか」でした。とても難しい内容でしたが、『岩国を盛り上げるイベントをする』『錦帯橋ガイドを楽しむものにする』など実現可能なアイデアがたくさんできていました。

中学生が、地域のことや自分自身のことを真剣に考えていて頼もしく感じました。<地域住民>

グループ協議のまとめや発表も中学生でした。要点をしぼり簡潔に発表していました。「字が小さく薄くて見づらいかもしれません。すみません。」と他者を思いやる言葉が印象的でした。

中学生と地域住民と教職員、年齢も経験も立場も違う「異質なものととの出会い」が、「新しい見方・考え方」を生んでいました。地域を学んだり、地域の人と学んだりする活動が、本当に自分たち(子供)のためになっているかが大きな課題になっていました。始めは緊張気味だったグループでの協議が、時間の経過とともに、本音を出し合う展開へと発展していました。「違う角度からの考えが新鮮だった」など、大人も子供も熟議の楽しさを感じ取っていました。